

エリアとくらし

第 48 号 2024 年 11 月

発行：社会福祉法人

時津町手をつなぐ育成会

西彼杵郡時津町西時津郷 1156

TEL：095-882-7585

<http://www.togitsu-ikuseikai.jp>

令和 6 年度 定期総会



令和6年6月29日（土）13：30～16：00時津町北部コミュニティーセンターにて、定期総会が開催されました。参加者は来賓を含め96名、たくさんの方々にご参加いただきました。

山内理事長からは全国的な課題となっている会員減少や高齢化など、育成会の抱える現状と、B型事業と生活介護の中間層を対象とした新事業・エリアプラス（就労継続支援B型）の計画など、将来の展望についての話がありました。また、時津町の山上町長、山口議長、三好顧問からは日頃の活動への感謝と「本人さんたちの努力する姿が、周りにも広がって行けば良いと思う」と激励の言葉をいただきました。その他、レストランさきの、グループホーム・ケアホーム ドリーム・ドリーム2の事業報告などありました。

開会、閉会挨拶をされた山内佳さん、林田友樹さんは緊張されていましたが、立派に役割を果たされました。

総会終了後は研修会のニーズアンケートの報告、職員紹介と続き、最後に新入会員さんと、「わたしたちの自己紹介」と銘打って会員である本人さんたちからの紹介コーナーがありました。みなさん班ごとに、自分で考えてきた言葉でご自身のことを一生懸命伝えていました。個性あふれる発表に会場が笑顔と和やかな雰囲気になりました。みなさん素晴らしかったです！

ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。（池田）

親なき後の備えを考える～グループホームの暮らし～

令和6年9月14日(土)エリア21において、研修会を開催しました。

時津町手をつなぐ育成会や時和特別支援学校の保護者、総勢21名の参加がありました。

本法人が運営する2棟のグループホームの実際の生活の様子、支援や設備、利用料など、具体的に紹介しました。実際の支援の様子では写真を多く使い、食事、日課、利用者さんが趣味を持ち、楽しく余暇を過ごす時間もありながら、同居するメンバーと役割分担をして共同生活を送る様子などを知っていただきました。

後半は利用者さんの保護者からお話を伺いました。障害年金 2 級＋工賃で利用料を払っていること。ご本人が利用を納得するまでに1か月掛かったこと。訪問看護を利用し医療面での親の負担が減ったこと。離れた生活が始まると家族に時間のゆとりが出来たことなど、利用に至るまでの心情や葛藤などのお話も伺えました。

グループホーム(共同生活援助)とひとくちに言っても、現在、制度や運営の方法は様々です。障害者施策は18年前から大きく変わっており、同じ立場の会員同士が集い、新しい制度や事業所を知ったり、体験を共有することの大切さを改めて感じました。(辻)



農園だより イノシシ対策として「エリアの丘農園」に柵を設置！



柵の根元も
ガッチリ固定
しています！



最近、時津町内でイノシシの目撃情報が多く、当施設にも職員駐車場付近と「エリアの丘農園」にも出現！

さつまいも畑も少しですが荒らされていました。そこで、時津町に柵をお願いし、農園指導員の甲斐さんに設置をしてもらいました。その後は、イノシシが来た形跡はありますが、柵の中までは入っていません！イノシシ出没にもめげず野菜の植え付け作業をし、収穫時期を待ちます！（利用者さんの安全には充分配慮して作業を行っています）

【今後の農園計画】

- ・10月下旬「ブロッコリー」植え付け
- ・11月初旬「さつまいも」収穫
- ・12月初旬～中旬「サニーレタス」収穫
- ・1月頃「はなっこりー」収穫
- ・2月頃「じゃがいも」植え付け、「ブロッコリー」収穫

※毎年11月には「さつまいも」の収穫をみなさん楽しみにしています。例年「デカイ！」さつまいもがいくつか収穫できますが、今年はどうでしょうか！乞うご期待！（城田）

素敵な布をたくさんいただきました！

エリア21、レストランさきの料理長のご親戚の泊様が、とても素敵な布を段ボール箱いっぱい送って下さいました。アパレル会社で余った布だそうです。

これだけ沢山あると、バッグやポーチやコサージュや…いろいろな物が作れそうでワクワクしています。「レストランさきの」のギャラリーでは利用者さんたちが制作した布小物も販売しています。ギャラリーも時々、覗いてみてくださいね～(^^)（山口）



いちごいちば出店

8月7日(水) いちごの家さん主催【第2回 いちごいちば】に出店させていただきました。

いちごの家さんにお誘いいただき、7日の当日に向け利用者さん😊は作品作りを頑張りました。

刺し子ふきん・お手玉・コースター・眼鏡コード・ストラップ・ブローチなど出品しました。



出品する楽しみはもちろんですが、いちごいちばにお出かけして、お買い物をするのが利用者さんのもう一つの楽しみでした。作業の関係で全員行くことはできませんので、希望者の方は●とっていましたが…😞

その頃、エリア21では数人のコロナ感染者の方がお休みをされており、感染拡大を防ぐという判断のもと、残念ながらお出かけできなくなりました(ノド)シクシク… 炎天下、出店準備やお会計など、全ていちごの家さんで引き受けてくださり、本当にありがとうございました。次の第3回は現地で楽しめますように😊(西川)

🍓 お知らせ 🍓

令和6年11月28日(木)【第3回 いちごいちば in いちごの家】が開催されます。

新入会員さん & 新入職員さん



新会員: 大井浩さん

7月から通所しています。大井浩(おおいひろし)です。47歳です。

身長が193cm、靴のサイズは30cmです。好き嫌いはありません。

一人であっちこっち出かけることが好きです。

みなさん、よろしくお願いします。



新職員: 本多 絹代さん

8月より、ドリーム2の世話人としてお世話になっております。初めての職種に戸惑いながらも、事務長初め、各所の先輩方と「ドリーム2」の皆様にご教を請いながら、家族のように仲良く、そして安心して暮らせる場を提供すべく、努力していきたいと思っております。何卒宜しくお願い致します。



新職員: 根津 洋子さん

退職して一年半、ちょっとしたキッカケで六月からドリームにお世話になっております。

まだまだ足りない所があると思いますが、先輩に助けられ新たに仕事ができる事に感謝して頑張っていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



新職員: 富松 朋子さん

初めまして。7月からドリーム2で楽しく働いています。はじめは、面喰うことも多かったのですが、大分慣れてきました。

先輩方の完璧なお掃除、入居者さんへの丁寧な対応。早く、そのようにできるように、頑張っています。どうぞ宜しくお願いします。

テーマⅠ 講演:「強度行動障害を有する児・者への支援～中核的人材と広域的支援人材の活用～」

講師:独立行政法人国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 理事長 田中 正博氏

強度行動障害とは、自閉症や知的障害などのある人が、障害特性に対する理解がない環境で、無理解、誤解、偏見から差別や排除され、適切な支援が受けられず行動障害がさらに重くなった状態です。福祉サービス利用者の約 15%に自傷他害やパニックなどの強度行動障害があり、虐待される障害者の約 3 割に強度行動障害があることが各種調査からわかっており、家族や支援者の疲弊は著しいものです。

最悪の状態になってから相談や対応を求めるのではなく、早期の段階で家庭・学校・福祉サービスのどの場面でも一貫した対応によって、二次障害の発生を防ぐケアができる支援体制づくりが欠かせません。

今回は、強度行動障害のある人でも、今までの限定的な施設での支援から、地域で生活できるよう、人材育成を中心とした支援体制づくりが進んできた現在において、今、どのような支援が求められ、受け入れ可能な事業所をどうやって増やしていくのか、報酬改定の位置づけと具体的な取り組みについて、詳しく解説されました。

まず「中核的人材」とは、事業所の支援現場において適切な支援を実施、組織の中で適切な指導・助言ができるよう研修を受けた、事業所内の人材のことです。さらに「広域的支援人材」とは、強度行動障害のある人を受け入れている事業所に対して、個別事案も含め支援に関する指導助言等を行うなど、地域の事業所を支え、体制づくりを牽引し、支援の中心的な役割を果たすコンサルタント、スーパーバイザー的な人材のことを言います。

講師の田中氏ののぞみの園では、強度行動障害により家庭では生活できない、一定の要件を満たした障害者を 2 年(実質 3 年)入所受入れにより支援しています。地元へ帰ることを前提に、地域との連携も図りながら問題の解決を目指した支援の在り方を探っていて、全国から入所者が来るものの、北海道・四国・九州からの利用実績はないそうです。「移動が大変だからだとは思いますが、必要としている人はたくさんいるはず。遠方へ行かずとも地元でケアを受けられる施設(＝中核的人材が居る事業所)が出来ることが理想的」で、そのためにも人材育成が急務、とのことでした。

テーマⅡ 実践報告 【社会福祉法人 南高愛隣会】と 【のぞみの園】 から

後半では、強度行動障害のある人への支援の実践について報告されました。南高愛隣会では自閉症の男性利用者へのアセスメント(本人の特性、ストレスの要因となっている環境・状況、課題となっている行動のあぶり出し)と、構造化による環境調整の記録が紹介され、男性の反応を見ながら構造化の対応を細やかに変更していく様子に「なるほどな～」と頷きながら見たり、熱心にメモを取る参加者もおられました。

また、のぞみの園の入所者の、ケアによるビフォーアフター的な動画も披露されました。入所当時は支援者と両手をつないだ状態でなければ部屋の移動も車に乗るのも難しかった男性が、しっかりとアセスメントをとり、適切な支援方法を探って取り組んだ結果、1 年後には見違えるように指示を理解し活動に取り組み、混乱することなく落ち着いて観光地で休日を楽しむ、本来の能力が取り戻された様子に、驚きと感嘆の声も上がりました。

今は強度行動障害とまではいかなくても、不適切な環境や対応によって、わが子に 2 次障害が発生する可能性は容易に想像がつかます。家庭で一緒に生活できているうちは問題なくても、親なき後考えた時、家庭以外の方でも本人が心穏やかに行動できるよう一貫した支援が受けられる環境があれば、家族にとってもそれは安心材料の大きな一つになることだろうと感じました。(那須)



～会場で紹介された書籍です～

しあわせな高齢期・・・一般の高齢者より 10～15 歳ほど早く進むといわれている知的障害のある人の高齢化。50 代になったら知っておきたいこととして、高齢期の体の状態変化や対応の工夫がわかるように事例で紹介されています。

障害のある人が使える支援・・・昨年刊行の「あたらしいほうりつの本」の最新版。簡単な説明とたくさんのイラストで、制度の解説では、最新の「就労選択支援」や「移行支援住居」なども収録、さらに障害のある子どもが使える制度の解説が大幅に充実しています。